

**幸綱** この家を建てたのもそのころだった。  
**奥田** 住み始めたのがこのころですか。

**幸綱** いや、この土地に住み始めたのはもっと前だけど、この家を建てたのは頼綱が生まれる少し前、この時代だった。前の家を建てて二十年くらい経ったし、そろそろ建て直したほうがいいんじゃないかという事です。

**奥田** 先に時代のことを話しますと、一九八〇年にイラン・イラク戦争があったて、田中康夫の小説『なんとなく、クリスタル』がベストセラーになり、文学もずいぶん様変わりしました。八二年に東北上越新幹線が開業。八三年に東京デイズニールドが開業。同時にワープロも普及し始めるという時代で、熱かった「シンポジウムの時代」だった七〇年代からちよつと時代が変わり始めたというところです。その一年後の八四年には一万円札の肖像画が聖徳太子から福沢諭吉に代わるという、象徴的な時代の変化がありました。華やかかなりし八〇年代がこのときに始まります。

**幸綱** 先生の人生においても、朋子さんとのご結婚があり（一九七六年）、七九年に

頼綱さんが生まれ、青年から中年へシフトチェンジをしたところでしょうか。

**黒岩** お仕事では早稲田の講師の時代ですか。

**幸綱** いや。跡見に勤めてた時代だね。早稲田には八四年に行きます。跡見は遠くて通うのが大変だった。ここから一時間半から二時間かかるというのに、週三回、行っていたんだから。

**奥田** この家の建て替えがちょうどそのころだったそうですが。

**幸綱** 頼綱はこの今の家が出来てから生まれたんだよね。

**朋子** ええ、そうです。

**幸綱** 頼綱が生まれる寸前にこの家を建てたわけだから、今日の話題になる時期のはじまりはこの家が出来たのと同じくらいだね。この前も話したが、初めて二階建ての家に住んだんだよ。

**高山** この土地には住んでらしたんですね。

**幸綱** そう。ここに住んでいた。文京区から引越してきて。平屋だったけど。

**奥田** この家を建て替えられたのは何かきっかけがあったんですか。

**幸綱** 結婚して、ここから歩いて五、六分くらいのところ（瀬田四丁目）に住んだ。おふくろ（佐佐木由幾先生）だけがここに住んでいた時期があって、二、三年して、この家を建て替えたわけ。

**朋子** 書庫を造るために建て替えたんです。  
**加古** そのときに書棚を可動式にされたのですか。

**幸綱** ええ。カネがなかったから電動式じゃないんだよね。手で押して動かすほう（笑）。

**黒岩** 僕は七九年に大学に入って、八一年、大学二年のとき、「心の花」に入りました。そのころの「心の花」は今よりすごく薄いというのがまず一つあります。全体で六十ページくらいしかありません。九九七号、九九八号。そして、九九九号、一〇〇〇号、一〇〇一号と三冊揃って記念号が出たのですが、その厚さたるや。今だと毎号一〇〇ページを超えているので三〇〇ページの記念号でもそんなにびっくりしないのですが、ふだん、六〇ページくらいのが毎月来ていたのが、こんな分厚い記念号だったの、歴史つてすごいんだなあということを入ったばかりのころに感じました。